川本町・邑智町・瑞穂町・桜江町・石見町・大和村・羽須美村

山門と経蔵は見逃せない
正蓮寺

川本町三原
＜指定＞町・建造物（楼門・経蔵）

川本町の市街地からすこし離れた所にあり、立派な山門が目にとまる。簡素な中にも技巧を凝らした江戸時代中期の誠実な作風は、中央の影響を直接受けたと考えられ、学術上貴重視されている。山門をくぐると、お経をたくさん納めた経蔵がある。
＜交通＞ＪＲ石見川本駅から車25分

つわものどもの夢をしのぶ
丸山城跡

川本町田窪

中世の武将・小笠原氏の根拠地で、石見地方では最大規模の山城。15代長旌により1585年に完成。ふもとから森林浴を楽しみながら山道を車で登ると、約5分で駐車場に着く。眼下には三原地区、彼方には三瓶山・大江高山が一望できる。比較的よく残っている石垣は当時のもので、往時をしのばせる。近く公園として整備される予定。
＜交通＞ＪＲ石見川本駅から車25分

山陰最古の年号を持つ石塔
木谷石塔

川本町川下
＜指定＞県・建造物

江の川災害の復旧関連事業に伴って1981年に発掘調査が行われ、その後ほぼもとの位置に安置された南北朝時代の九重塔。延文3年(1358)の紀年銘を持ち、在銘の多層塔としては、県内はもちろん山陰地方でも最古のもの。層塔の中にあったお経・経石・古文書などは、近世の宗教や習俗を考えるうえで貴重な資料だ。
＜交通＞ＪＲ因原駅から徒歩15分。

戦国ロマン、眺め最高
八幡城歴史公園

邑智町浜原

国道375号線を走り、浜原地区にはいると公園の入口を示す看板が目にとまる。中世の山城跡を利用して、つくられた公園。ふもとからは約900mで、山頂まで登ることができる。邑智町の町並はもちろん、浜原ダム・三瓶山・中国山地などの眺めは格別。
＜交通＞ＪＲ浜原駅からふもとまで徒歩10分、山頂へはさらに徒歩30分

柿本人麻呂を訪ねて
斎藤茂吉鴨山記念館

邑智町湯抱

明治から大正、昭和にかけて活躍したアララギ派の歌人・斎藤茂吉は、万葉の歌人・柿本人麻呂の終焉の地「鴨山」を求めて数度この地を訪れ、ついに鴨山を湯抱にある山と断定した。国道沿いの記念館はこの斎藤茂吉をたたえて造られたもの。そこから車で5分進むと公園があり、「鴨山」と詠んだ山がよく見える。「人麿が　つひのいのちを　終わりたる　鴨山をしも　ここと定めん」の歌には、茂吉の執念ともとれる感慨が込められ、訪れるものの胸を打つ。
＜交通＞ＪＲ粕渕駅からバス20分
湯抱温泉入口下車すぐ
＜連絡先＞0855-75-1070
＜いにしえ＞5巻P44

「銀の道」の重要ポイント
酒谷番所跡

邑智町沢谷

沢谷地区は現在、赤来町に隣接するが、かつては出雲国と石見国の国境だった。戦国時代から江戸時代に、わが国最大の規模を誇った大森銀山の銀は、ここからさらに三次・尾道を経て大阪の幕府金蔵に運ばれた。1度につき馬270頭、人300人あまりもの大集団であったと言う。幕府の役人が常駐し、銀や銀製法の流出、労働者・技術者の逃亡を見張る重要な場所だった。現在は石碑が静かに建つのみ。
＜交通＞ＪＲ沢谷駅から車20分
＜いにしえ＞1巻P39

瑞穂町内の文化財総まくり
瑞穂町郷土館

瑞穂町下亀谷

「四隅突出型墳丘墓」で有名な順庵原1号墓にほど近い場所にあり、国道にほぼ隣接する。館内には、町内で見つかった土器や石器などの考古資料から民具までを豊富に展示。外には、町内で発見された箱式石棺も展示。中世の山城・二ツ山城跡もよく見える。隔日開館のため、見学には確認が必要。9時から4時半。無料。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車15分
＜連絡先＞0855-83-1580

「四隅突出型墳丘墓」初発見の遺跡
順庵原1号墓

瑞穂町上亀谷
＜指定＞県・史跡

出羽川によってできた河岸段丘は遺跡の宝庫だが、これも段丘の端にある。道路建設に先立ち、発掘調査が始まったのが1960年代後半。調査とともに、四角い墳丘の四隅が突きでた不思議な形が注目を集めた。山陰地方独自の墓として有名な「四隅突出型墳丘墓」がはじめて発見された、学史上にも残る遺跡だ。なお出土遺物の一部は、郷土館に展示されている。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車15分
＜いにしえ＞2巻P27、3巻P34

「ウナギの寝床」
牛塚１号墳

瑞穂町上亀谷

中国山地には、平野部ではあまり見られない独特の形を持った横穴式石室が分布する。この古墳の石室もその1つで、入口から奥までが細くて長く、玄室と羨道の区別がつきにくいため、「ウナギの寝床」とも呼ばれている。さらによく見ると、石室は中央がやや広がり、石もこぶりのものを傾けながら積んでいることなどから、山陽地方の石室の影響下にあると思われる。遺物は見つかっていないが、他の2つの古墳とあわせて、6世紀末から7世紀初めごろに造られたものと推定される。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車15分
＜いにしえ＞３巻P34

車で山頂 近くまで行ける
二ツ山城跡

瑞穂町鱒淵

鎌倉時代出羽朝輔によって築かれた、石見地方では2番目に古い山城跡で、堀切がよく残っている。出羽氏は高橋氏によって、いったん城を追われるが、1530年高橋氏が毛利氏によって滅ぼされると、城はふたたび出羽氏のものとなった。現在は車で山頂付近まで簡単に登ることができる。遊歩道もある。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車15分

「たたら」だらけ
清造山製鉄遺跡

瑞穂町上田所

国道261号線の広島県境付近にある。「高殿」と呼ばれる、近世の本格的なたたら製鉄が出現する直前の製鉄炉と考えられる。以前、発掘調査が行われ、調査時の様子が看板で見られる。町内ではほかにも およそ300カ所のたたら跡が確認されている。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車10分

銀の歴史を今に伝える
久喜鉱山跡

瑞穂町久喜

1190年ごろ発見されたと伝えられ、明治時代も銅や銀を産出した。戦国時代、毛利氏が石見に進出するとき、まずここを押さえたほどの要衝だ。江戸時代には天領として、石見銀山代官の支配下に置かれた。現在は間歩（坑道跡）である大きな穴が残るのみである。「銀山」と言えば、まず大森銀山が思い浮かぶが、島根の銀の歴史を知るうえで、ここは忘れてはならない場所だ。
＜交通＞浜田自動車道大朝I.C.から車30分

おたっきー情報

邑智郡内には、約600もの製鉄関連遺跡が見つかっている。中国横断自動車道の瑞穂インターチェンジの敷地内にも、実はこの1つが眠っている。国内でも数少ない6世紀の製鉄遺構で、工事に先立つ調査によって発見された。現在、実物は見られないが、インターチェンジ内に看板が立っている。

浜田藩主も通った
石州街道石畳

瑞穂町市木

江戸時代、浜田と広島の2つの城下町を結ぶ、総延長125kmにも及ぶ石州街道は、浜田藩主の参勤交代や多くの旅人の往来でにぎわった。山陰山陽の交通の要所で、石畳は各所に残る。自然石を巧みに敷いた所に、当時の高度な技術がうかがえると同時に、街道造りに携わった人びとの苦しみも今に伝えるモニュメントだ。
＜交通＞浜田自動車道瑞穂I.C.から車10分

郡内最古、寺宝も豊富
甘南備寺

桜江町川越
＜指定＞国重文・工芸（櫨匂威鎧残闕）

746年高僧行基の創建と言われ、邑智郡内ではもっとも歴史の古い寺。戦国時代には温湯城主（のち丸山城主）・小笠原氏の祈願寺でもあった。創建1250年の節目を迎える1996年には、行基の作と言われる本尊虚空菩薩像が一般公開される。収蔵庫には宇治川の先陣争いで有名な、佐々木高綱のものと言われる大鎧の一部（国重文）や刀などの文化財が、ぎっしり詰まっている。これらは事前に申し出れば見学できる。
＜交通＞ＪＲ川越駅から徒歩20分
＜連絡先＞0855-93-0358（代表役員・左右田真照氏宅）

江の川を見おろす大菩薩
神変大菩薩像

桜江町川越

国道261号線を走ると川本町と桜江町の境近くに、通称「立岩」と言われる大岩壁がある。高さ1.4mのこの像は、立岩に台地を造り、1000年前に安置されたといわれている。江の川の対岸から見ると、ベンガラの朱色をバックに石像がはっきり見える。昔から水難防除・交通安全祈願の仏として尊ばれてきた。現在この部分だけ防護網がなく、対岸からでもよく見える。
＜交通＞ＪＲ石見川越駅から車10分

石見最大規模の古墳群
中山古墳群

石見町中野

国道261号線で名勝「断魚渓」を過ぎ、車で2、3分行くと、正面に見えて来る山が古墳のある場所。弥生時代から古墳時代にかけての墓地として使われたようで、総数100以上の古墳・弥生墳墓が連なっている。丘陵すべてをまわるのは困難だが、丘陵上の高まりは容易に判別できる。国道をはさんで南東には、戦国時代の山城・雲井城跡が望める。
＜交通＞ＪＲ因原駅より車25分
＜いにしえ＞3巻P34

銅鐸の輝きのナゾ
仮屋銅鐸出土地

石見町中野

1914年、当時近くに住んでいた椿源六さんがそばを作ろうと笹薮を開墾していたところ、地面から約60cmの所に銅鐸が2つ並んで埋まっているのを見つけた。うち1つには水の流れのような美しい文様があった。現在、実物は東京国立博物館にあるが、町中央公民館に、レプリカが飾られている。
＜交通＞ＪＲ因原駅より車25分

そびえる山城
雲井城跡

石見町井原

国道261号線を車で広島方面へ走り井原地区へ入ると、すぐ左手に見える。郭の跡を示す平坦面は、簡単に確認できる。ここは鎌倉時代、出羽氏によって築かれた山城で、のちに小笠原氏、福屋氏によって支配された。ふもとの天蔵寺の脇から山手へ入ると、名勝天蔵滝にも行ける（まむしに注意）。
＜交通＞ＪＲ因原駅より車20分でふもと

石室の構造がよくわかる
割田古墳

石見町中野
＜指定＞県・史跡

小高い丘の上の民家の庭先のような場所に、四角い石囲いがあるが、これが割田古墳の横穴式石室の入口だ。もとは直径10m前後の円墳だったと考えられている。現在は石室の様子がよくわかるように復元されている。1969年に発掘調査が行われ、7世紀ごろの須恵器などが発見されている。
＜交通＞ＪＲ因原駅より車20分
＜いにしえ＞3巻P34

尼子・毛利の戦いをしのぶ
尼子陣所跡展望台

大和村都賀西

都賀展望台とも言う。1540年、尼子詮久は安芸国郡山城（広島県吉田村）の毛利元就を撃破しようと富田城（能義郡広瀬町）を出、10月、郡山城の攻撃にかかった。郡山城の守りは堅く長期戦となり、やむなく軍をまとめて退却にいたった。彼らにとっていちばんの難関は、冬の江の川越えであった。追撃する毛利を見張るため、ここ「陣所跡」に布陣したのである。眺めは最高。
＜交通＞ＪＲ石見都賀駅から車10分

田んぼの中に石室が露出
土居原古墳

大和村都賀西

要路城があった山のふもとの田んぼに、大きな石室がむき出しになっている。もとは直径10mくらいの円墳であったらしい。横穴式石室の上には後世の人が造った小さなほこらがある。7世紀ごろの古墳と推定される。
＜交通＞ＪＲ石見都賀駅から車5分
＜いにしえ＞3巻P33

毛利四天王・口羽氏の本拠
琵琶甲城跡

羽須美村下口羽

戦国時代、毛利氏は口羽を出雲・石見に対する作戦上の重要拠点と考え、1530年、信望の厚かった当時19歳の志道通良にこの地を与えた。通良は琵琶甲山にあった城を改築し、「琵琶甲城」を造ったと言われる。姓も口羽と改め、毛利家四天王の一人として東奔西走し、おおいに活躍した。役場のほぼ北に位置する山がそれで、遊歩道も整備されている。
＜交通＞ＪＲ口羽駅から車5分

社宝は「神馬図額」
賀茂神社

羽須美村阿須那
＜指定＞国重文・絵画（板絵著色神馬図）

1569年、この神社に二面の絵馬が奉納された。躍動感あふれる駿馬が見事に描き出されたこの絵馬の作者は、初期狩野派の代表である狩野元信の次男・秀信で、重要文化財に指定されている。文化庁はアメリカ合衆国の建国200年祭に際し、「日本神道美術展」にこの「神馬図」を出展した。現在は島根県立博物館で、展示・保管されている。
＜交通＞ＪＲ口羽駅から車15分
＜いにしえ＞6巻P19

山門に華麗な彫刻
西蓮寺

羽須美村阿須那
＜指定＞村・建造物（輪蔵・楼門）

初めは真言宗の寺であったが、1578年、口羽通良によって浄土真宗に改められた。備後・安芸・石見の三国に800戸の信徒を擁した時代もあった。現在も残る山門は、高さ13m、45m²の総欅造りで、釘は1本も使われていない。龍・獅子・花鳥などの彫刻は見事。さらに高さ3mの金箔極彩色の回転式経蔵は、全国で３例しかない。
＜交通＞ＪＲ口羽駅から車20分
＜連絡先＞0855-88-0759

珍しい大刀の装飾品が出土
野伏原古墳

羽須美村雪田
＜指定＞村・史跡

村内で最大規模を誇る横穴式石室を持ち、直径10m前後の円墳であったと考えられる。築造は7世紀ごろ。県内唯一の「三累環頭」を出土したことで、注目されている。三累環頭とは刀の柄の端につけた装飾品で、朝鮮半島に起源を持つ。朝鮮半島からの輸入品と考えられる。現在この三累環頭は松江市の八雲立つ風土記の丘資料館にあり、見学できる。
＜交通＞ＪＲ口羽駅から車20分
＜いにしえ＞3巻P33

おたっきー情報

発掘調査中に地元の人によって出土品が持ち込まれることは多く、地域の歴史を豊かにするきっかけにもなっている。瑞穂町の市木地区で見つかった骨蔵器もそうした1例で、平安時代前半ごろの須恵器の壺の完形品。類例の少ない山陰地方において、貴重な資料となった。